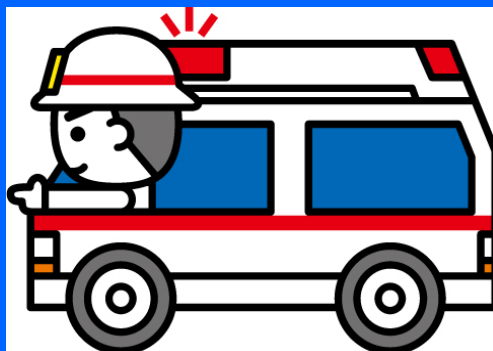
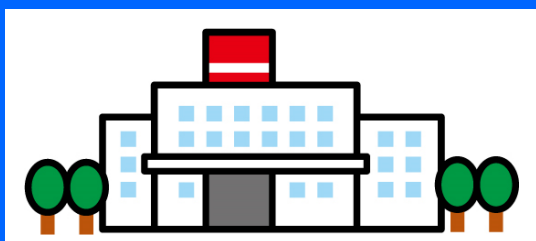




にかかわるお願いです。



生命の危険がある傷病者が

救急車を待っています。



あなたの大切な人を守るため、
救急車の正しい利用について
考えてみませんか？



限りある救急車が、緊急の傷病者のために出動できるよう、
「119 番」通報する前に、救急車を必要とするほどの
緊急な事態かどうか、考えてみてください。

● このような救急車の利用はやめましょう

緊急性のない状態で、
救急車を
呼んでいませんか？



夜間・休日の病院が
わからないという理由で
利用していませんか？

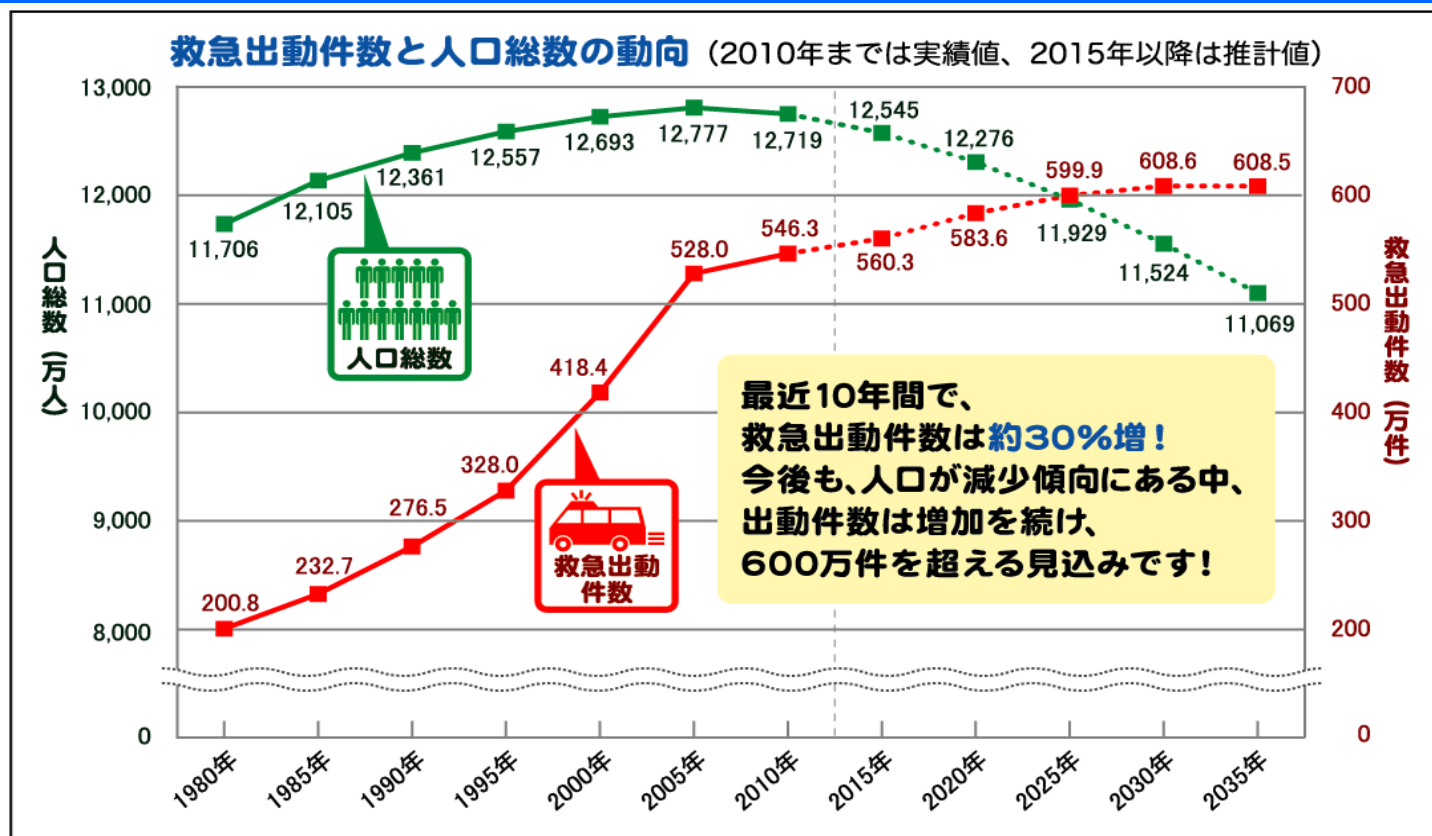


タクシーなどの
交通機関の代わりに
利用していませんか？



救急出動の現状と将来推計（全国）

※総務省消防庁資料

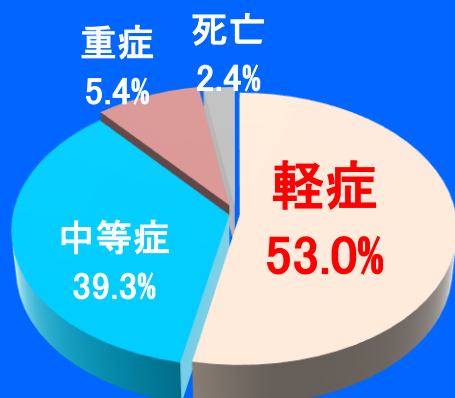


※2010年の出動件数は、速報値

※推計人口は、「日本の市区町村別将来推計人口」（社会保障・人口問題研究所作成）の中位推計を使用

※2015年以降の出動件数は、2007～2009年の全国の救急搬送データを基に算出した搬送率（救急車の利用率）と推計人口を用いて推計したものであり、今後の搬送率の変化や社会情勢の変化等は考慮していない

令和5年 救急車による傷病程度別搬送人員構成比（亀山市）



救急車で搬送された人の
**半数以上が入院を
必要としない軽症**
です！

この中には、本来、救急車を利用
する必要がなかった人も見受けられ
ます。

救急車で受診したからといって、
早く診てもらえるとは限りません。
医療機関でも命にかかわる方を優先
して診察します。

軽症：入院の必要がない方

中等症：3週間未満の入院が必要な方

重症：3週間以上の入院が必要な方

死亡：初診時において死亡が確認された方

1. 救急通報のポイント

救急車を呼ぶときの番号は『119番』です。

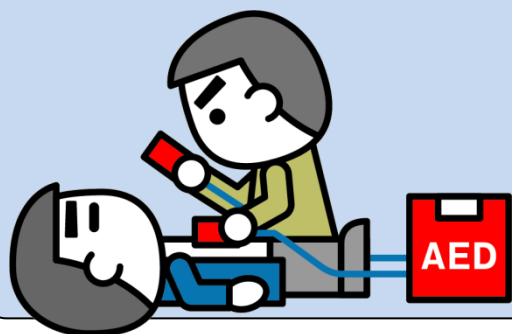
救える命を救うためには、**応急手当**が重要です。
応急手当が必要な場合は、消防本部から電話で指示されます。

AEDを誰かに
持ってきて
もらってください



救急車が到着するまではどうしても時間がかかります。
いざというときに、大切な方を救うためにも、
正しい応急手当を身につけておきましょう。

出動件数の増加に伴い、到着
時間が延伸しています。



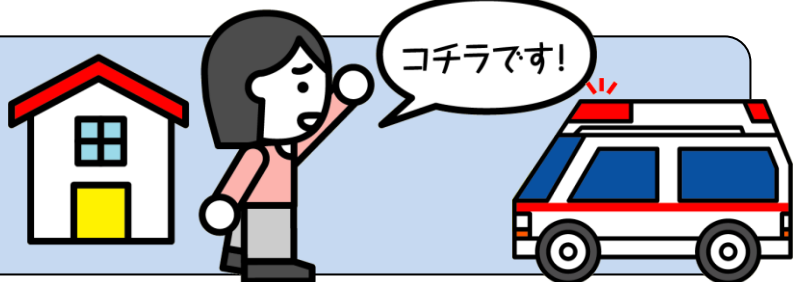
消防署では**応急手当の講習**を行っています。
お近くの消防署まで問い合わせてください。

亀山消防署 TEL:82-9493

関分署 TEL:96-1780

北東分署 TEL:84-1096

応急手当をしている人以外にも
人手がある場合は、
救急車の来そうなところまで案内に出ると
到着が早くなります。



救急車を呼んだら、**こんな物を用意しておく**と便利です。

- ・保険証や診察券
- ・お金
- ・靴
- ・**普段飲んでいる薬**
(おくすり手帳)



(乳幼児の場合)

- ・母子健康手帳
- ・紙おむつ
- ・ほ乳瓶
- ・タオル



救急車が来たら、**こんなことを伝えてください。**

- ・事故や具合が悪くなった状況
 - ・救急隊が到着するまでの変化
 - ・行った応急手当の内容
 - ・具合の悪い方の情報
- (持病、かかりつけの病院やクリニック、
普段飲んでいる薬、医師の指示等)

持病は●●●
かかりつけ病院は ▲▲▲病院
普段飲んでいる薬は ■ ■ ■

* 持病、かかりつけの病院
やクリニックなどは、
日頃からメモにまとめて
おくとおくと便利です。

2. ためらず救急車を呼んでほしい症状：高齢者

こんな症状がみられたら、ためらずに **119 番に連絡** してください！
重大な病気やけがの可能性あります。

高齢者



顔

- 顔半分が動きにくい、しびれる
- 笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくい
- 見える範囲が狭くなる
- 周りが二重に見える

手・足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 急にふらつき、立てられない

胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 旅行などの後に痛み出した
- 痛む場所が移動する

おなか

- 突然の激しい腹痛
- 血を吐く

意識の障害

- 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)

けいれん

- けいれんが止まらない

けが・やけど

- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど

吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

飲み込み

- 物をのどにつまらせた

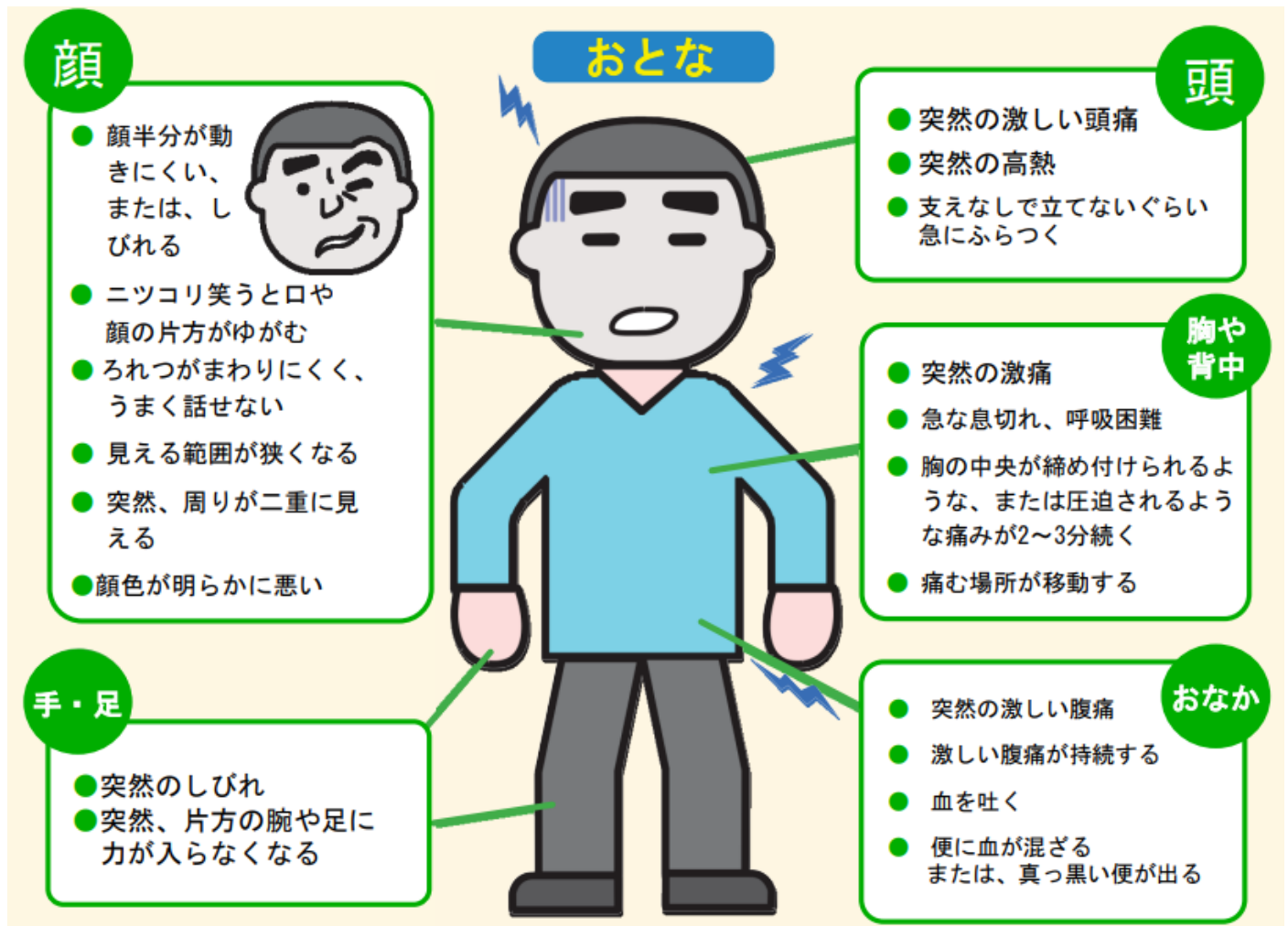
事故

- 交通事故や転落、転倒で強い衝撃を受けた

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合◎
高齢者は自覚症状が出にくい場合もありますので注意しましょう。

3. ためらわず救急車を呼んでほしい症状：大人

こんな症状がみられたら、ためらわずに119番に連絡してください！
重大な病気やけがの可能性あります。



意識の障害

- 意識がない（返事がない）
またはおかしい（もうろうとしている）
- ぐったりしている

けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

けが・やけど

- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど



吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

飲み込み

- 物をのどにつまらせて、呼吸が苦しい、意識がない

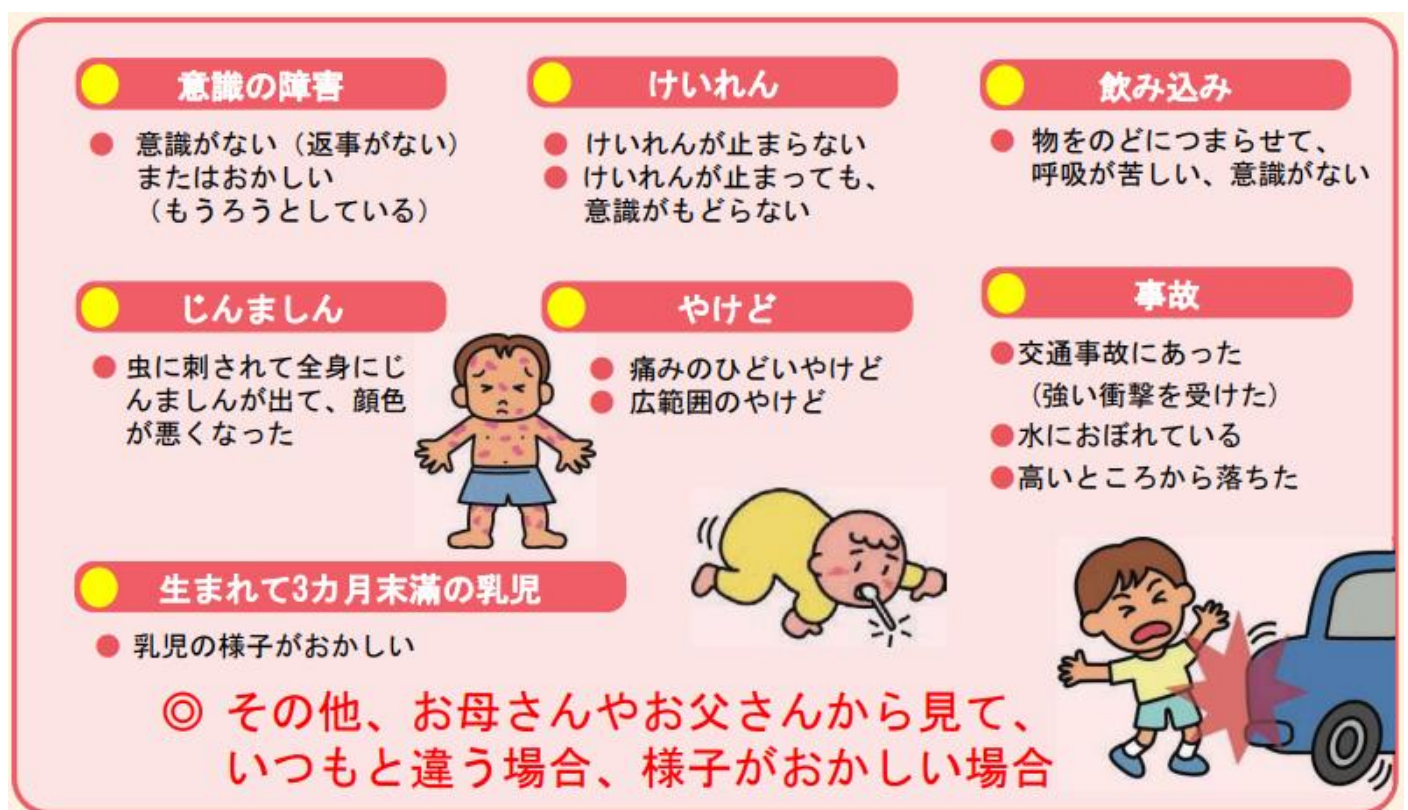
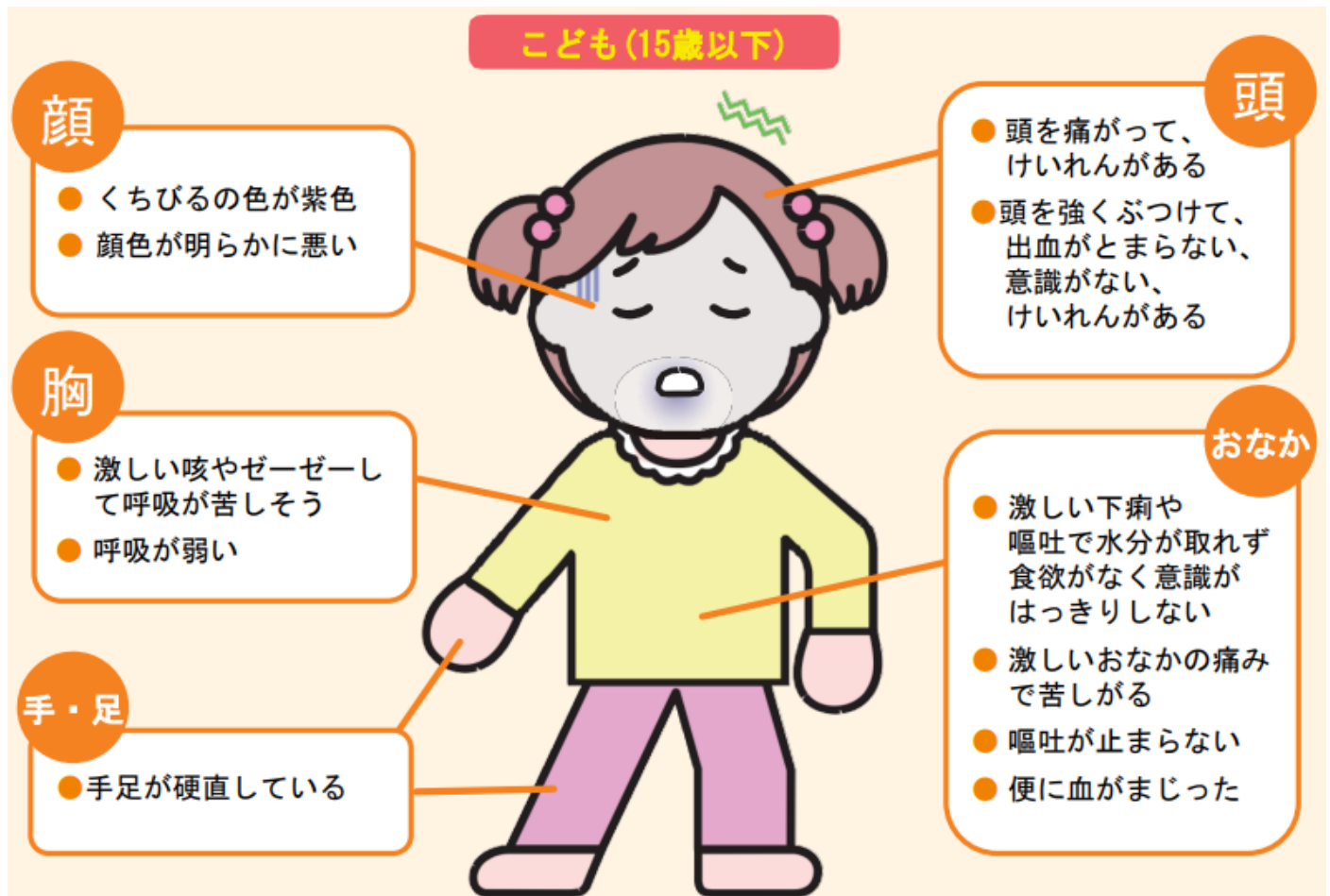
事故

- 交通事故にあった（強い衝撃を受けた）
- 水におぼれている
- 高いところから落ちた

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

4. ためらわず救急車を呼んでほしい症状：小児(15歳以下)

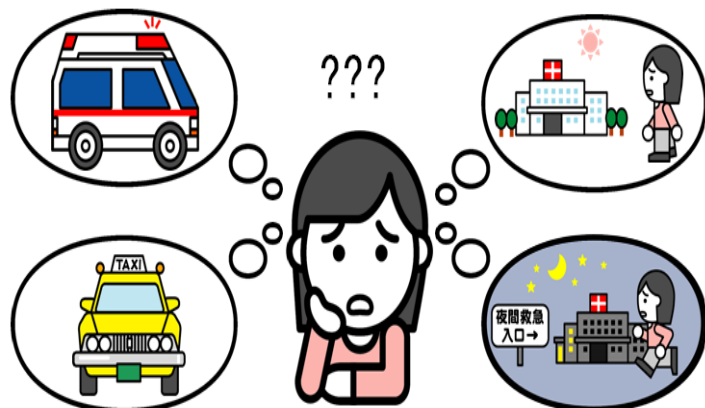
**こんな症状がみられたら、ためらわずに119番に連絡してください！
重大な病気やけがの可能性あります。**



5. 判断に迷った時は、救急相談窓口

急な病気やけがをしたとき、救急車を呼んだほうがいいのか、

自分で病院を受診すればいいのか、どこの病院に行けばいいのか迷うことがあります。



そのような時には、**掛かりつけの医療機関**にご相談いただくか、下記の**救急医療情報システム**を活用してください。

小児の場合には、**電話相談窓口**がありますので、ご相談ください。

#8000 小児救急医療電話相談事業
※各都道府県に窓口があります。

5. 救急医療の受診について ～本当に必要か考えてみましょう～

症状に緊急性がなくても、

「交通手段がない」

「どこの病院に行けばよいかわからない」

「便利だから」

「困っているから」と救急車を呼ぶ人がいます。

ほかにも、

「平日休めない」

「日中は用事がある」、

「明日は仕事」などの理由で、救急外来を夜間や休日に受診する人もいます。

救急車を呼ぶほどでもないが、すぐに治療を希望する場合は…

《**救急医療情報システム**》をご利用ください。

医療情報センター（対人案内） ☎059-229-1199

パソコン **URL** <http://www.qq.pref.mie.lg.jp/>

携帯電話 **URL** <http://www.qq.pref.mie.lg.jp/k/>

自動案内 ☎0800-100-1199（通話料無料・ファックスでも受信可能）
（受診の際は、必ず紹介された医療機関に事前確認してください。）

救急車や救急医療は**限りある資源**です。

いざというときの皆さん自身の安心のために、

救急医療の受診について考えてみませんか。